

## 介護・ヘルパーネット NEWS ②

全国労働組合総連合 〒113-8462 文京区湯島2-4-4 全労連会館4階 TEL03-5842-5611

# ♪ 介護をよくするアクション月間♪ 現場の状況を国会議員に伝えよう

## 11・27 国会議員要請&学習会

全労連は11月27日、中央社保協、全日本民医連とともに「11・27 国会議員要請&学習会」を行いました。介護・ヘルパーネットから在京メンバーを中心に参加し、参議院の厚生労働委員会の議員に要請をおこないました。要請に先立って行われた院内集会では、冒頭、中央社保協の是枝一成事務局次長が開会あいさつ。公的医療をまもるたたかいへの決起を呼びかけました。「財政審答申は、あたかも高齢者の社会保障が赤字国債の原因であるかのように描き出しているが、実際はアメリカの要求にしたがって行ってきた公共投資の結果だ」と指摘。介護も社会保障も充実させるためには署名の一筆一筆が力になると強調しました。

### 介護署名 1万 8571 人分提出

宮本徹衆議院議員が国会報告。「首相の『桜を見る会』の予算は1700万円なのに、実際は5千数百万円も使われている。名簿も破棄してわからない。税金の私物化を認めざるをえなくなってきた。一方で国民には財政大変だからと年金、社会保障を切り下げているなど許せない。税金は、憲法25条にのっとってまずは国民の生活、社会保障に率先して使わせるべき」と述べました。75歳以上の医療費窓口負担2割化を批判し、さらに介護の人材確保について、ケアマネの賃金引上げが課題と述べ、人材紹介会社の紹介料を規制すべきと訴えました。パソナから献金をもらっている人に政治を任せてはこんな当たり前のことも通らないと政権交代の必要性を訴えました。「現場の状況が議員・秘書に伝わっていると、国会で質問しても『そうだな』となる」と議員要請の重要性を強調しました。全労連介護・ヘルパーネットから介護署名 1875 人分を自治労連の小泉治中執が手渡しました。



介護署名を手渡す小泉さん（左端）右端は宮本徹衆議院議員

### 現場の声伝えた議員要請

全日本民医連林泰則事務局次長によるミニ学習会「医療・介護制度改革、全世代型社会保障をめぐって」のあと、参加者は国会議員要請に向かいました。

神奈川から参加した生協労連ユーコープ労働組合の星めぐみさんは、議員要請のなかで「ケアマネジャーはケアプランを作るときに有料化されたら、利用者が利用を控えるようになり、救える命、助けられる人が助けられなくなると心配している」「ヘルパーのみなさんは利用料が上がったら使えなくなるという利用者さんからの声を聞いて苦しいと言っている」など現場の声を伝えました。訪問



「社会保障改革」全体の流れは「縮小化」「産業化」「互助化」で特徴付けられると話す林さん



した4人は皆さん秘書対応でしたが、真剣に聞いてくれ、「党内の社会保障チームで議論しているところだ。伝える」、「検討したい」などの答えが帰ってきました。

議員要請終了後、星さんに現場の状況をうかがうと、「ヘルパーさんが不足して、職員も訪問に出なくてはならない状況で、利用者さんからの電話対応もままならない」「ヘルパーさんは、訪問時間が30分とか45分にされたことの影響が大きく、時給で働いているのに一度の訪問が1時間にならないことや、これまでできていた援助ができないことが辛いと話している」と教えてくれました。

全労連としての署名の目標は10万人分です。通常国会に向けてさらに署名をひろげましょう。

## よきよき介護に一20人が宣伝行動（愛媛）

愛媛労連と愛媛民医連が11月11日の「介護の日」に合わせて、松山市内で介護従事者の大幅な処遇改善、介護保険制度の抜本的な改善を求める署名宣伝を実施しました。医療や介護の現場で働く労働者約20人が参加しました。

介護制度ができて20年。「介護保険は、これまでに制度の見直しが続けられてきました。介護職1人ひとりを能力や経験、職種に応じて差をつけ、介護の現場に分断を持ち込む危険があります。私たちは、介護で働くすべての労働者の賃金改善を求めています。私たちは、『8時間働いて、人間らしく暮らせる社会』の実現を求めています」と、署名を訴えました。

署名に応じた女性は、「デイサービスを利用していますから（介護職員の）大変さは分かります」と話し、付き添っていた娘さんも「ヘルパーで働いていた友人も『続けられない』とみんな辞めてしまった」と述べました。また、別の男性は、「高齢の親がいますから、いつ制度のお世話になるか分かりません。安心できるものでないと困ります。切実です」と話しました。



## 組合に入ってみみんなで賃上げを勝ち取ろう 一巢鴨駅前「4」の日宣伝（東京）

全労連介護・ヘルパーネットは社保協の「4」の日宣伝にあわせ、中央社保協や東京社保協の皆さんと一緒に11月14日の昼に巢鴨駅前宣伝行動を行いました。36人が参加し、署名102人分（社保拡充48、介護署名54）を集め、チラシ入りティッシュ3000個を配布しました。全労連介護・ヘルパーネット責任者の岩橋祐治（全労連副議長）さんや世話人の米沢哲（日本医労連）さんが次々マイクをにぎり、巢鴨地蔵に高齢者や駅の利用者に向かって、署名への協力を訴えました。

自治労連の小泉治中央執行委員は「社会保障に使うとってはじめられた消費税は3%から始まって、この10月でついに10%になったが医療、介護、福祉はどんどん改悪されている」と述べ、とりわけ介護保険について次期通常国会で、利用料2割負担の対象拡大やケアプラン作成の有料化、要介護1・2の人の生活援助やデイサービスを介護保険の対象から外すことなどが狙われていると報告。「これでは『社会保障のために消費税を上げた』といわれても納得できない」と強調しました。10月からはじまった特定処



遇改善加算について、組合に入ってみんなで賃上げを勝ち

取ろうと呼びかけました。

# 介護の日スピーチ&パレード 100 人（北海道）

## 介護制度の改善、介護労働者の処遇改善急務

11月11日は「介護の日」。今年で4回目となる「スピーチ&パレード」が札幌駅南口～大通公園で開催され、介護福祉士など100人が参加しました。UHB（北海道文化放送）が夕方のニュースで報道しました。

### 第1部 スピーチ 介護福祉士の立場から

#### 「その人の生活や人生の質を守り抜く仕事」

介護福祉士・五十嵐修平氏（写真）は、「介護福祉士制度創設から30年。食事、排せつ、入浴介護をこなす作業員ではなく、その人の生活や人生の質を守り抜くために支援できる専門職であり、子どもたちに誇れる仕事。介護福祉士の明るい未来、そして全ての人々がその人らしく暮らせる社会をつくるために頑張りましょう」と呼びかけました。



#### 利用者の立場から

#### 「要介護2、サービスなしには暮らせない」

当会の元事務局員であり、現在はサービスを利用して暮らす橘晃弘氏（写真）は「私は要介護2、病気で歩くことができない。消費増税した

のに、要介護1・2のサービスを保険から外し、ボランティアで賄おうとしている。保険料も上がり、暮らしに展望を持ってない。当たり前暮らしを守ってほしい」と語りました

## 第2部 パレード 「介護士増やして、介護に笑顔を」音楽に乗せ賑やかに

大通公園へ向けて「介護士増やして介護に笑顔を！」と軽快な音楽と小気味よいコールで盛り上がりました。駅前通りを歩く市民は、写真や動画を撮影する一幕も。参加者は、認知症の啓発カラーでもあるオレンジのストールを身につけ、市民へアピール。介護士・巣組葵氏が「明日は介護の日です。道民全体の注目が集まり、心ある介護への理解につなげたい」と市民に呼びかけました。



### 【おわびと訂正】

11月12日付の介護・ヘルパーネットNEWS中、北海道医労連 田村優実さんの発言の記事に間違いがありました。また、番号を⑬としましたが、総会後のため①に変更してください。お詫びして訂正します。  
誤) 若竹労組 → 正) 和華竹労組

自治体との交渉後に経営側とミニ折衝をして  
誤) すぐに労働組合の申し入れ文書を作った。  
正) すぐに法人が労働組合への申し入れ文書をつくった。  
※訂正したニュースを添付します。